

千葉県下の特殊コレクション

森 田 保

近世房総の知行割は、佐倉、大多喜、関宿の要所を例外として1万石以下の直属家臣を配置した。これらは、高岡、多古（香取郡でいずれも1万石程度）などのように、主体は江戸の藩邸で、地元には小数の藩士が留守をあずかる例が多かった。従って、水戸、加賀のような地方文化を代表する藩学は生まれず、近世後期になって、やっと佐倉の洋学が長崎と対比されたにすぎない。

現在県内に残されているいろいろの典籍の集書からみると、江戸に近いという地理的環境から、多くの文化人が房総の素封家を巡歴して新知識をもたらしていることがうかがえる。稲葉黙斎の漢学、佐原を中心とする国学、大原幽学や佐藤信淵の経世の学、小林一茶らの俳諧、東上総に濃厚に分布する和算など一である。

しかし、土地の分断支配体制は、これらの新知識をも個々の趣味家を満足させたのみで、房総全般に浸透するものにはならず、わずかに算学の雰囲気のみから、伊能忠敬が出て、全国沿岸測量の偉業を成し遂げているにすぎない。

明治になると、これら素封家の蔵書は地方文化啓蒙の貴重な核となり、かなり自主的な活動が見られる。香取郡干潟町の螢雪社は、明治17年約款を定めて組合文庫をつくったのを始め、25年、県立図書館の前身の千葉県教育会附属図書館、33年には長尾文庫、34年に成田図書館と各地に図書館活

動が展開され、県内外の蔵書が寄せられた。この間の推移は千葉県図書館史に詳しく、以下主題順に特殊コレクションを紹介しよう。

「予が卒先図書館を創立して此地に置き内外古今の図書を蒐集して無料閲覧の企画をなせるの微意、庶幾くは諒とせられんか、予は各位の一人も多く来りて本館の図書を閲読し、一人も多く世の文明に後れざる者の生じて我成田の前途将来に大光明を放ち、大希望ある土地たらしめんことを切に望むものなり」

前後を端折って要約したこの文章は、明治35年、成田山報告第1号に掲げられた石川照勤僧正の巻頭文である。僧正は所蔵本15,000冊をもって図書館を創設、爾來同館は新勝寺5事業の一つとして発展した。大正13年、僧正、示寂にあたり、遺言をもって13,620（洋書 2,149）冊を同図書館に贈った。成田図書館はこれを望洋文庫と名付け、禁帯出扱いにして保存している。その内容は同館の中核的存在で、各分野を網羅し、洋書は日本、東洋関係が多い。特に総記部門では、明治、大正雑誌コレクションが有名で、創刊以来逐号保存464種、創刊号のみの蒐集280種がある。逐号保存分は全国公共図書館逐次刊行物総合目録に収録され、検索が可能になっている。このうち明治後半以来の仏教雑誌は研究価値が高く、戦前版の仏教論文総目録も同館に負うところが多い。

哲学部門では、やはり成田に木村泰賢文庫がある。木村泰賢は「阿毘達磨論の研究」で文学博士となった人で「六派哲学」によって帝国学士院恩賜賞を受けている。また駒沢大学などで教鞭をとり、東京帝国大学仏教青年会の創立に尽力した。文庫は愛蔵の印度哲学、仏教学関係の1,500冊から成る。

林泰輔記念文庫（千葉県立）。この文庫は、香取郡常盤村にあった旧杜城図書館本で、明治末期の各分野の集書だが、主体は漢籍なので、一応ここで取り扱うことにする。冊数は凡そ5,000冊、この漢籍で特徴的なのは程朱学と敬義学である。林泰輔の学統は、佐藤一斉—大橋訥庵—並木栗水という系譜につらなる。林泰輔は大正13年、本邦に所在する四書の古本、注釈・異本を調査して「四書現在書目」を編纂した。この書目に、杜城図書館本として「四書便蒙講述」などが見えている。一方の南学に、稲葉黙斉の門人の写しとして、小学筆記、孤松全稿などがあり、黙斉が天明元年、上総清名幸谷（現成東町）に隠居して、父迂斉の旧門人に囲まれ、上総道学を完成したその名残りがうかがえる。伝来については今後の研究に待たなければならないが、コレクション自体、房総の漢学の縮図である。

安政元年、香取郡常盤村（現多古町）に生まれた林泰輔は、東京大学、東京高等師範の教授を歴任、「上代漢字の研究」によって文学博士、「周公と其時代」により学士院恩賜賞を受けた。明治35年、文部省より国語教科書の編纂を委嘱された頃から地方教育に関心を持ち、郷党のため日頃蒐集の書籍をもって私立図書館を創設した。こ

の林博士の蒐集資料は現在県立図書館蔵のもの、歿後、東京文理大（現教育大）に寄贈された林文庫とをあわせると、ほぼ完全に伝えられている。

また博士は甲骨学の先駆者でもあり、明治の中頃、本郷の文求堂に入荷した亀甲獣骨によった「清国河南省湯陰県発見の亀甲牛骨に就て」の史学雑誌掲載論文は歴史的なものである。

甲骨学については、くしくも、現代中国に歴史学者・文学者の郭沫若がいて、唯物史観を駆使して、実証的な金文研究を続々発表している。その郭氏が本県の市川市に居住した縁もあり、千葉大学に大槻信良教授の尽力で郭沫若文庫が残された。冊数は約2,000冊、別置されていて、目録は計画中とのことである。

その他の漢籍集書では、林泰輔の師並木栗水の文庫が米本図書館の付属文庫（著書・蔵書2,000冊）としてあり、成田図書館には柏原文太郎（東亜同文書院の創設者、中華民国の教育事業にたずさわり、国民党に属して政界に活躍）文庫の漢籍4,376冊がある。図書館以外の機関では市原市公民館に、土地の漢学者、川上南洞の旧蔵書や郷土版の上総宮谷檀林版などがあるが、現在利用は困難である。

心理学には大槻快尊文庫があって、実験心理学中心の洋書700余冊が成田山に伝えられている。師は名古屋市大須観音堂宝生院山主、京大講師であった。

仏書では、前述望洋文庫、池田照誓僧正文庫（452冊）を持つ成田図書館が質、量に勝れ、県立にも石川照助文庫（大蔵経などで、混架されている）があり、野田には宙童文庫がある。宙童文庫は興風会図書館

から昭和39年に目録が印行されている。

次の歴史部門は、まず郷土の資料的価値の高いものとして船橋図書館の房総関係資料を挙げなくてはなるまい。和書1,500部、古文書200点、明治期図書1,000冊、絵画280点、古地図120点があり、以上の目録として船橋市立図書館蔵房総関係古地図目録、同小冊子目録、同錦絵目録が刊行されている。

また佐倉と山形の飛地とで11万石を領した譜代大名堀田家の資料が県立図書館にある。堀田伯爵家佐倉邸御手許用及び詰所用並びに東京邸旧蔵書の「明版二十一史」「三語便覧」などの4,400冊、医療法人厚生園には御用部屋所管と想像させる図書及び堀田正睦の外交文書などが土蔵に保管され、図書目録が佐倉地方文化5号に特集として掲載されている。

佐倉藩は寛政4年(1792)、佐倉温古堂を宮小路に創設、さらに天保7年、大手門外に成徳書院を開設して藩士に学ばせた。この藩校は昌平黌の制に習い、朱子学派を中心とした初等教育を施す小学、医学局、高等教育の大学から成り、兵学到手塚律蔵、医学に佐藤泰然を招聘している。その後藩校は鹿山中学、佐倉集成学校と改められ、蔵書は現佐倉高校に伝えられた。このうち千葉県指定文化財の「ハルマ和解」などを含む蘭学は、佐賀、仙台、福井の大藩に比較して遜色なく、英学書と併せて1,000余冊が佐倉文庫と呼ばれていた。稀覯であるが、池田哲郎氏による「佐倉藩旧蔵書目録」「佐倉藩英学書志」、岩崎克己編「佐倉文庫蘭書目録」謄写刷ながら河内才三編の「佐倉中学図書目録」がある。

そのほか、藩政資料でコレクションとな

っているのでは、県立に生実藩(千葉市森川家1万石)があるのみで、すべて散逸している。地方関係では千葉大学に千葉郡横橋村旧名主家資料、県立図書館に東金市台方の名主役前島家の文書、数千点がある。千葉大のそれは町野家文書目録として昭和44年に公表されている。

また千葉県では房総の発展につくした人として20人の先覚者を顕彰している。この関連文庫として佐原の伊能忠敬記念館に、忠敬の著書、日記など961点、目録として千葉県図書館協会報第4号に伊能家蔵書目録(大原大衛編)がある。大原幽学資料は大原幽学保存館と県立図書館にコレクションがあり、前者から110年祭記念として昭和43年、幽学遺品目録が刊行された。同じく先覚者の一人、東洋学の泰斗、白鳥庫吉の蔵書の一部が成田図書館に保存され白鳥文庫となっている。

社会科学部門は興風会図書館に茂木潤一郎の寄付金の果実による婦人関係コレクションの覚成文庫、教科書を中心とした五倫文庫がある。この文庫はすでに明治24年、伊藤鬼一郎氏が教科書の収集を始められて、伊藤文庫の名称をもっていたものである。戦後、ユネスコより外国の教科書の寄贈を加えて2万数千冊にのぼっている。

初期教科書では有数のコレクターであった宮木宥式師の文庫が県立図書館にある。師は自身、「明治時代小学教育書目録」を刊行、昭和9年千葉県図書館新築記念に明治小学教科書展覧会を共催、その縁によって教科書を中心とした2,700冊を寄贈、現在、洋本は混架され、重要な資料群となっている。和本類は国書と漢籍に大別、それぞれ和装本索引稿本に収録されている。

房総の自然科学を代表するのは和算と医学である。算学が香取・山武に濃厚なることは前述したが、県立図書館の**花香安精記念文庫**(千葉県有形文化財、昭和44年指定)は花香家から香取郡、萬歳小学校に寄贈され、さらに大正15年、県立図書館に寄せられた492冊で、これらの算書によって和算研究家、三上義夫氏は房総の諸算家を考証し、房総数学年表を千葉県立図書館叢書に発表している。目録として「房総算学調査資料」がある。

房総の医家としては茂原の千葉家(眼科)小見川に本多家(内科)佐原の高安家(外科)の名家があったが、真の近代医学は、佐藤泰然が順天堂を、養嗣子、尚中(先覚者の一人)が済生精舎を設立して、多くの医生を養成してからである。

明治7年、千葉町に共立病院が建てられ、これが千葉大学・医学部に発展する。医学部図書室には明治13年来、院長、校長であった長尾精一氏を記念して**長尾文庫**がある。また眼科、東洋医学研究室に泰然の曾孫、佐藤恒二氏が順天堂蔵書2,610冊を寄贈し、**順天堂史資料**として保管されている。

産業関係では、興風会図書館にキッコーマン関係を中心とした文庫、印旛沼開発史刊行会(印旛開発K・K)が印旛沼関係文献5,000点を収集、その充実ぶりはめざましいものがある。

芸術部門には、佐倉出身の漢学者、演劇改良家、そのうえ自ら脚本を書いて新派劇を興した依田学海の学芸関係の和本を主とした900余冊が成田図書館にあり、**依田学海文庫**と名付けられている。

最後に文学部門だが、近代文学館の分館

：日本児童文化館が昭和40年、鹿野山マザー牧場に開館、明治、大正、昭和、三代の児童文学資料3,200点を収集展示している。同じ西上総には松美佐雄(本名、戸塚峻、童話研究家、日本童話連盟会長、天羽町湊にて歿)のフランス児童文学コレクションがあり、歿後木更津市図書館に移され、**松美文庫**となっている。この外、文学ものとして興風会図書館が**尚文文庫**、**降雲児童文庫短詩型文学文庫**を設定している。以上大略を述べたが、社寺、個人においてもコレクションとして公開しているものもあり、これらについては「全国特殊コレクション要覧」の改定がなされると聞いているので、その折、詳しい内容を提出したい。

—千葉県下特殊コレクション一覧—

千葉県立中央図書館

1. 林泰輔文庫
2. 堀田文庫
3. 石川照勤文庫
4. 花香安精記念文庫
5. 宮木宥弍文庫
6. 大原幽学関係資料
7. 関和知記念文庫
8. 杉村広太郎記念文庫
9. 生実藩資料
10. 高木文庫
11. 前島文庫

船橋市立図書館

12. 房総資料
13. 書誌学資料

木更津市立図書館

14. 松美文庫

柏市立図書館

15. 成島文庫

財団法人興風会図書館

16. 有吉文庫
17. 絳雲児童文庫
18. 覚成文庫
19. キッコーマン文庫
20. 長井実文庫
21. 尚文文庫
22. 短詩型文学文

- 庫 23. 宙童文庫 24. 堀田藩政資料
25. 蓮台文庫

成田山文化財団成田図書館

26. 池田僧正文庫 27. 石川 鴉 齊 文庫
28. 大槻快尊文庫 29. 柏原文庫 30. 木
村泰賢文庫 31. 白鳥庫吉文庫 32. 望洋
文庫 33. 依田学海文庫 34. 足立栗園文庫
35. 明治大正雑誌文庫

財団法人米本図書館

36. 並木栗水文庫

財団法人五倫文庫

37. 伊藤鬼一郎文庫

伊能忠敬記念館

38. 伊能家蔵書及び遺品

大原幽学保存館

39. 大原幽学先生遺品及び関係資料

日本児童文化館

40. 明治, 大正, 昭和児童文学関係資料

市原市公民館

41. 川上南洞文庫

千葉大学附属図書館

42. 郭沫若文庫 43. 千葉郡犢橋村旧名主
家資料

千葉大学医学部図書室

44. 長尾精一記念文庫 45. 順天堂史資料

千葉県立佐倉高等学校

46. 佐倉文庫

佐倉厚生園

47. 堀田家資料

印旛開発株式会社

48. 印旛沼関係資料

(もりた・たもつ：千葉県立図書館司書)

次 号 予 告

〔「新聞のあゆみ」展示会にちなんで〕

新聞名辞考 斎藤 毅

文書に見る帝国図書館の新聞収集——明治・大正期の歩み 西村正守

新聞雑誌の全国総合目録の作成をねがう 西田長寿

新聞記事の開発 高須正郎

「毎日新聞抄録索引」について 高原誠一

新聞——この不思議なもの 楠 忠尚

鈴木秀三郎氏旧蔵新聞関係資料目録 多田俊五／西宮能敬

新聞史・社史目録 井門 寛

古書古人(3)——落葉社 桑原伸介

『海外新聞』の関与者本間潜蔵(本間清雄)伝の覚書 稲村徹元

文久年間の商用会話本とその編者 Eugene M. Van Reed について 福田光子

フランス国立図書館の歴史——目録史を中心に——(1) 松本慎二／木村素子

世界主要各国の議会一覧表 山口美代子／熊田淳美

埼玉県下の特殊コレクション 浅見利二／森田雄一

山形県内にある特殊コレクション 三春伊佐夫 他